

# 「どうして空気はなくなるの」

新涯小学校 4年 石田 琥太郎

新涯小学校4年 石田琥太郎  
どうして空気はなくなるの？

わたしたちは呼吸をして、いつも空気をすったりはいたりしています。人間がすった空気の量と、はきだした空気の量はほとんど同じだから、人間がたぐさいても空気の体積そのものがへることはありません。

ところが人間や動物が空気をすると、空気の中の酸素が人体の中に取込まれます。はきだした空気の中には、二酸化炭素がたぐさふくまれています。このままだと、酸素がへって二酸化炭素がうえていきます。

しかし、そうならない理由は、植物があるからです。植物は人間とまったく反対のことをしているのです。そのことを光合成といいます。光合成のどちゅうで酸素をはきだしているのです。つまり、人間がはきだした二酸化炭素を、植物が酸素にかえているのです。

人間やどうぶつがはいたに二酸化炭素を、植物が酸素にかえる。人間とどうぶつはたすけあいのからいきるのである。



科学なぜなぜ110番という  
サイトをインターネットで調べ

ていたら、空気がなくなる理由というタイトルを見つけて、「おもしろそうだな」と興味をもちました。

低学年の時に、紅葉について調べたことがあったから、光合成のことは知っていたけれど、今回また植物の光合成が、空気がなくなるのことに関係していたことを知って、植物がなかったら人間の生活に悪い影響があるかもしれないと感じました。

4年生の総合的な学習の時間で環境について勉強していることに結びついていて、植物を大切にしたいほうがいいと思いました。